



清風

南砺市立上平小学校
学年 校だより
令和 3 年 7 月
上平小学校ホームページ
<http://kamitaira-e.el.tym.ed.jp>

ふるさとの誇り、人・もの・こと、そして気ばたらき

校長 林 秀次

新年度が始まってから3か月が過ぎ、1学期のしめくくりの時期となりました。夏の暑さが本格的になってきた今日この頃、先週からは水泳指導も始まり、プールからは元気な子供たちの声が聞こえてきます。

さて7月9日に合掌の里で高学年の校外学習を行いました。天候が心配される中でしたが、子供たちは元気に活動することができました。イワナとりでイワナをつかんだ友達のところにバケツを持っていく姿、グループの中で助け合いながら調理をする姿、教え合いながら五箇山かごづくりに取り組む姿など、気付いた時にすっと行動に移していくことができる子供の姿を見るにつけ、“気ばたらき”という本校の伝統を体現してくれていることを感じ、うれしくなりました。この活動の裏には、東田さんはじめ合掌の里の方の“気ばたらき”がありました。雨天でも活動ができるように、外でも中でも調理ができる両方の準備や、大雨で外の活動ができないときの活動の計画、そのための講師の先生の手配等、本当に細部にわたり準備をしていただきました。そのおかげで雨の心配がある中でも混乱せず充実した活動に取り組むことができました。

また、7月12日には、オリンピックに参加する選手の練習を見学するために全校児童で、桂湖に行きました。天候等による練習予定の変更で、湖面上での練習は見ることはできませんでしたが、離れた場所からトレーニングの様子を見ることができたり、コーチの方が子供たちの見える位置まで出てきて手を振ってくださったりしました。せっかく子供たちが来たのだからと、担当しておられる係の方が配慮して交渉して下さった“気ばたらき”のおかげでした。

世界の一流の国々が「ここで合宿をしたい」と選び、実際に活動している選手の評判も上々だという桂湖、昔からの伝統と文化をつないでいる世界遺産である合掌集落をはじめとした文化財や文化、そして相手を考えそっと配慮して下さる温かい地域の人々、世界に誇ることができる南砺市の宝だと改めて感じました。子供たちも私たち教職員も地域の「人・もの・こと」のすばらしさに支えていただきながら活動ができているのだということを心に留め、“ふるさとの誇り”や、“気ばたらき”を大切にしていきます。



作品作りを通してつながる、広がる思い

中学年主任 荒木 裕治

「船長、これは、どうしたらいい？」
「穴を開けて、つないだらいいんじゃないかな。」
「ぼくは、向こうでもうちょっと牙を作ってくるから。」
「分かった、私はここで龍に牙を取り付けとくね。」
これは、中学年の図画工作科「つながれ、広がれ！だんボール」の学習中の子供たちの声です。子供たちは段ボールの形や色の感じを基に、自分たちでイメージをふくらませて、「あれを作ろう、やっぱり、これを作ろう。」と造形的な活動を思いついたり、段ボールの形を変化させたりしていました。その中で、子供たちの思いはつながり、広がって、あるグループでは、気分は船長とその仲間たちになりきっていたり、また、あるグループでは部品を作る子供と取り付けをする子供に分かれて声を掛け合って効率よく作ったりしていました。どのような作品ができあがるのかとても楽しみです。

